

# 2024 年度研究助成 研究実績報告書

代表研究者	島崎 敢
研究テーマ	バス置き去り事故防止のための優れたアイデアの発掘と展開による安全活動エンカレッジ効果の検証

## I. 研究の背景と概要

近年発生した保育園バス置き去り事故を受けて、内閣府は保育園や幼稚園などの約4.4万台のバスに「置き去り防止装置」の設置を義務づけました。しかし、装置は完全なものではなく、装置をつけたことによる現場職員の油断も懸念されます。国土交通省も「装置はあくまでも送迎用バスの運行のための園のマニュアルの運用等のソフト面での対策と組み合わせた上で効力を発揮する」と指摘していますが、具体的な「ソフト面での対策」は示されていません。

事故は稀な事象であり、全国には4.4万台の送迎バスが存在し、基本的に毎日2回運行しているにもかかわらず、置き去り事故の発生件数は年間数件に留まっています。人間のエラー率を考えれば、置き去り防止のための優れた対策が現場で実践されているはずですが、事故にならないことは通常注目されないため、これらの対策は他の園に情報共有されないまま埋もれている可能性があります。

本研究では、関西地域の保育園・幼稚園・こども園105施設を対象に、バス置き去り事故防止のための優れた取り組みを収集し、専門家による評価を経て、有効な対策を「明日からできる園バスの安全管理」というリーフレットとして取りまとめました。さらに、このような取り組みが現場の安全活動へのモチベーション向上にどのような効果をもたらすかを検証しました。

## II. 研究の成果

### 1. 優れた実践事例の収集と共有

関西地域の105の園からバス置き去り防止のための優れた対策を収集し、安全管理やヒューマンファクターの専門家による評価を経て、以下のような取り組みを抽出しました。

- **座席の工夫**: 固定座席制の導入、座席表への写真添付、降車順を考慮した配置など
- **日常業務との融合**: 忘れ物確認や消毒・清掃作業と連動した安全確認
- **ICTシステムの活用**: タブレット端末を使用した乗降管理など
- **アナログチェックリストの工夫**: 名簿型と手順型の活用
- **園児同士の見守り**: 友だちを思いやる心を育む保育を通じた安全確認
- **報告しやすい職場づくり**: 些細なミスも報告しやすい雰囲気の醸成

これらの対策を分かりやすく解説したリーフレット「明日からできる園バスの安全管理」を作成し、大阪府内の園バス運行施設に配布するとともに、ウェブサイトで全国に向けて公開しました。

### 2. 安全活動エンカレッジ効果の検証

リーフレット配布後の調査から、優れた対策の共有が現場の安全意識やモチベーションに与えた影響を分析しました。その結果、「安全のために頑張っている現場の努力が伝わってきた」(平均3.77/5.0)、「このような取り組み事例の共有は有意義だ」(平均3.79/5.0)など高い評価が得られました。また、「自園の良い取り組みも他園に共有したいと思った」(平均3.62/5.0)との回答が多く、安全文化の醸成と改善意欲の向上につながったことが確認されました。

これらの結果から、現場の優れた取り組みに光を当て、その価値を評価・共有することが、安全対策の改善だけでなく、職員のモチベーション向上にも寄与することが示されました。特に「失敗の原因」だけでなく「うまくいっている理由」にも着目する視点は、前向きな安全文化の醸成に貢献する可能性があります。

本研究の成果は「園バスの安全管理 実践事例集」(<https://kids-safety.org/>)として公開されており、今後も子どもたちの安全を守るための取り組みを継続していきます。(右の図はパンフレットの表紙と内容の一部です)

